



体育館 男性用トイレ 内観・大便器

# 徳島県立阿波西高等学校 / 体育館

「生活に誠を、言動に責任を、生涯に力を」を校訓に掲げる、調和のとれた生徒を育成する高等学校

防災への理解を深める防災教育を推進し、状況を的確に判断する能力や、進んで役立ちとうとする態度の育成を目指す。体育館トイレの改修では、平常時も災害時も使用可能なレジリエンストイレを採用。いつもと同じ場所・同じ使い方で使用でき、誰にでも安心・快適なトイレ環境を整えている。



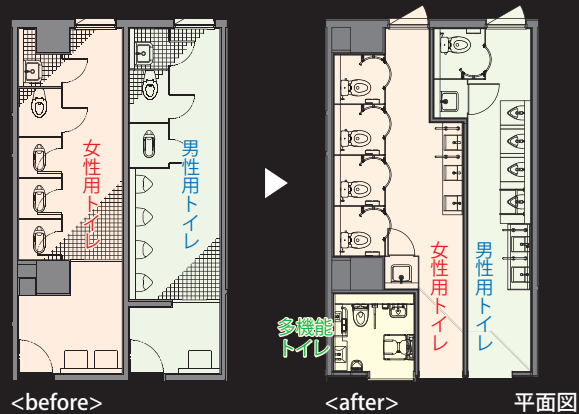
外観全景

## DATA

施主：徳島県営繕課  
 設計：プリズム建築設計室  
 建築工事：有限会社有持鉄工所  
 管工事：株式会社三栄設備  
 所在地：徳島県阿波市阿波町下喜来南228-1  
 竣工：2019年2月

## 商品情報

- <一般トイレ>
- 大便器：レジリエンストイレ BC-P112SA + DT-PB150CH
- 普通便座：CF-39CK
- 小便器：U-406RU
- 洗面カウンター：MB-500KD7WS(1600) ※男性用トイレ  
MB-500KT7WS(2275) ※女性用トイレ
- 自動水栓：AM-200CV1
- 水栓金具：LF-E02
- <多機能トイレ>
- 多機能トイレパック：PTWC-AC181L1WWG



<before> <after> 平面図

掲載内容及び写真・図版の無断転載はかたくお断りします。(許可なく転載・流用した場合、損害賠償が発生します。)

## 改修前



(上)洗面エリア  
(下)大便器エリア

(上)小便器  
(下)和風便器

## 設計担当者様の声

徳島県は南海地震等の発生後、避難所での災害関連死ゼロを目指して公立学校等のトイレの環境改善を推進している。しかし、避難所として具体的な運営方法が定まっていない施設も多い。本設計では、防災クラブの学生たちと一緒に「避難所運営ゲーム」(HUG)を使い、避難者のカテゴリ別に部屋割りや支援内容を話し合った。この中で、学校内のトイレの使い方も検討し、避難部屋に最も近い体育館トイレは高齢者やけが人等が使用する計画となった。学生達は過去の被災地の体験から、5Lの水をバケツで流すことが高齢者等には難しく、水をこぼす等して衛生環境の悪化に繋がった事例を学んでおり、レジリエンストイレはまさに現場の期待に沿うトイレであった。

実際に設置されたレジリエンストイレを見て、あまりにも普通だという印象を持った。しかし、その普通とは、災害時にも「普通」にトイレが使用できるという普通だと気づいた時、今後、多くの人を災害関連死から救う偉大な発明であると胸をふるわされた。この避難所では、5Lの水を持ち上げられない人も1人でトイレに行くことができる。自宅と同じようにレバーで便を流せる。そして、災害時に苦勞をする水の確保や汚水量も減らすことができる。まさに避難者にとっても管理者にとってもメリットの大きいトイレだと感じる。

これから学生達は、災害対策について継続的に学習をしていくと聞いている。いつか来るその日を乗り越えたいと切に願う。

プリズム建築設計室 / 多田 豊 一級建築士 (現 阿南工業高等専門学校 講師)

## トイレ入り口まわり



壁面を木目にし、他の壁と差別化することで緩やかにゾーン分けされたトイレ入り口。黄と緑のラインや大きく設置したトイレサインとともに視認性も高めている。

## 多機能トイレ



オストメイト器具を備えた多機能トイレを新設。緊急呼び出しボタンや、入り口の目につきやすい位置には異常発生を知らせる表示灯を設置し、万一に備えている。

## 男性用トイレ



木目の温かさが柔らかい雰囲気を作り出す室内。各所に手すりを設置し、安心して利用できるよう配慮されている。小便器下には尿垂れを考慮した汚垂石を設置。

## 女性用トイレ



ブースの扉は円弧を描きながら開閉し、無理な姿勢をとらずに入出りが可能。大便器には平常時5L/災害時1Lと洗浄水量の切替ができるレジリエンストイレを採用。